

# 虹の海の童話集

キングのいる海

ぶん・え プアマリナ 1999年5月

ぼくたちイルカが暮らす海には、キングと云う名のシャチがいた。

頭に王様のかんむりの様な傷があるからそう呼ばれている。

なんでも昔、サメとたたかってできた傷らしい。

キングはその名の通りシャチの王様だ。仲間の中では一番大きいし、泳ぐのもすごく早い。

それにあはれんぼうのサメだっていじわるなゴンドウクジラだって、キングを見ただけですごいスピードで逃げて行つちゃうんだ。

お父さんやお母さん、それに他の大人のイルカたちはキングのグループをすごく恐がって悪口ばかり言つてゐるけど、ぼくたちは体がすくんでおしつこをちびりそになつた。

ある日、ぼくたちが入り江で魚を追つかけて遊んでいると、突然シャチのむれに出くわした。危ないから入っちゃダメだとお母さんに言われていた場所だつた。みんなあわてて逃げたんだけど、ぼくだけ逃げおくれてしまつた。キングにギョロッとにらまれたぼくは体がすくんでおしつこをちびりそになつた。

「おいほつず、さつさと逃げないとおれ様が喰つちまうぞ。」

そんなこと言われても動けないんだ。

「なんだぼうず、おれ様が恐いのか。」

キングが近づいてきた。頭の王様のかんむりがはつきりとぼくには見える。サメの歯形の一つ一つまで。

だめだ。もう食べられちゃうと思つた時、シャチの王様はニヤリと笑つた。

「お前みたいなちつちついやつを食べても腹の足しにもなりゃしねえ。」

そして仲間に合図して入り江から出でいつてしまつたんだ。

ぼくはあとでお母さんに大玉玉をくらつたけど、でもキングがますます大好きになつたんだ。



そんなぼくたちの住む海に事件がおこった。キングが一人でどこかへ出かけてしまった時のことだ。

キングがいなくなつて大人たちは喜んだ。

「これでやつと平和にくらせん。」

でも大人たちの言う平和は続かなかつた。

西の方から大きな大きなマツコウクジラが三頭もやつてきて、いじわるを始めたんだ。

しつぽに飛ばされて大けがをしたのもいるし、追いかけ回されて泣き叫ぶのもうるさい。

何より困ったのは餌の魚がみんな逃げていつてしまつたことだ。さすがのシャチたちもマツコウクジラにはかなわない。みんなこの海から出ていつてしまつた。「シャチなんていざという時まつたく役に立たない。」

大人たちがまたシャチの悪口を言い合つて、今はそれどころではない。しかたがないからみんなで住みなれたここを出していくことになつたんだ。

その時、ぼくたちイルカが出ていこうとした岬の方から、一頭のシャチがすごいスピードでクジラたちに向かつていくのが見えた。

キングがもどつてきたんだ。シャチの王様はいらだつた様にグルグル回りながら叫んだ。

「お前ら、おれ様の海から今すぐ出ていけ。」

クジラたちは相手がたつた一頭なのを見て鼻で笑つた。

「お前一人でおれたちとたかうつもりか。」

言い終わらないうちに、キングが先頭のクジラに飛びかかつた。

ものすごい波が立ち、水しぶきがばしゃばしゃと上がる。いかにキングとはいえ三頭ものマツコウクジラ相手では勝てっこない。

それでもボロボロになりながらもたたかい続けていた。王様のほこりを決して失つていない。

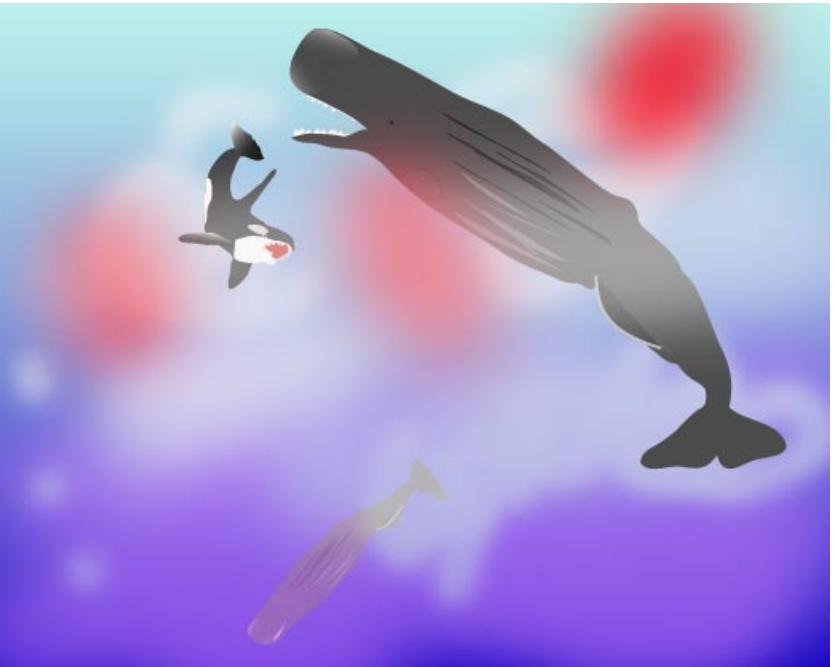
「がんばれキング。」思わずぼくが叫ぶと、キングはこっちをちらつと見た様な気がした。

さすがに大人たちからも声が上がつた。

「いいぞキング。がんばれ。」

やがてそのがんばりに勇氣<sup>ゆうき</sup>づけられた仲間<sup>なかま</sup>のシャチたちがもどってきた。

それを見たクジラたちは海<sup>うみ</sup>の底深くもぐつてしまい、そのままどこかへ出ていつてしまった。キングが勝<sup>か</sup>ったんだ。



その事件<sup>じけん</sup>からしばらくして、ぼくはまたあの入り江でキングに出会った。あの時の傷<sup>きず</sup>はほとんど治<sup>なお</sup>っていたけど、王様のかんむりが二つに増えている。

「おこぼづ、おれ様の体がこんなじゃなかつたら、喰<sup>く</sup>つちまうところだぞ。」

そう言つてシャチの王様はニヤリと笑つた。

大人のイルカたちはあの時のことすつかり忘れて、またシャチの悪口<sup>わるぐち</sup>を言ひ合っているけど、みんな知つていてるんだ。

キングがいるからこの海で生きていくんだって。

## お話の背景

「父兄の方に知つておいてほし」と

シャチはクジラの仲間です。  
集団でもつと大きなクジラを襲つたりする」とからキラーホーリなどという不名誉な呼ばれ方もしますが、本当はとても頭がよくて、家族愛にあふれた生き物のようです。

また、オキゴンドウクジラというこちらもクジラの仲間ですが、かなり気性の激しい種類がいて、歯形が非常にシャチに似ているところから、主にクジラを襲っているのはこちらではないかということも最近では言われています。クジラには普通の歯があるハクジラと、クシのような長い歯で小さな魚やオキアミなどを濾し取つて食べるヒゲクジラとがあります。セミクジラや有名なシロナガスクジラは、ヒゲクジラの方に入り、イルカやシャチなどはハクジラになります。

文中に出てくるマッコウクジラは、このハクジラの仲間の中で最大になる種類

で、世界中の海を股(つでどに?)にかけて泳ぎ回っています。

マッコウクジラの巨大な頭には脳油というものがつまつていて、ここに血液を循環させて体温を調節することにより脳油を液体にしたり固体にしたりします。これは主に深海の巨大なイカ（ダイオウイカ）を食料とする彼らの食性のため、脳油を固体にして深海まで一氣にもぐり、浮かび上がるときは脳油を液体にします。固体と液体の比重のお話は、存知ですよね。

文中では悪役に扮してもらつたマッコウ君ですが、非常に興味深いクジラだと思います。

## 虹の海の童話集

### キングのいる海

ご意見は、Web版「虹の海の童話集」  
<http://www.mars.dti.ne.jp/gec/fairy>  
またはE-Mail  
gec@mars.dti.ne.jp  
まで